

開催日時：令和6年2月26日（月）15：30~17：00

開催場所：二宮中学校 会議室

出席者：委員（加山、関口、長田、石井、稲子、小田、三好、校長、教頭、大森、峯尾）
山田、野崎、菅野

傍聴：0名

- 1 会長あいさつ
- 2 学校、各学年、特別支援学級の近況報告
- 3 協議

議題（1）学校運営協議会の運営について

資料に沿って3つの部会より説明

①学習支援部会

（委員）3年生の3学期学習相談は、この時期に実施する必要があるのか要検討である。

1・2年生の参加は多い。参加したボランティアから「これからも参加したい。」「良い取り組みである。同じ生徒が何度も利用しているのが素晴らしい。」という感想があった。「ここ来ると落ち着く。」という生徒もいる。勉強することだけではなく、生徒たちの安心できる居場所になっていることが良い。

②学校環境整備部会

（委員）12月8日に2年生と地区懇談会を実施した。

総合的な学習の取組に必要な人材を学校運営協議会委員が探して、当日パネリストとして参加していただいた。商業の課題など討論して理解が深められた。

今後は、この部会に対して教職員や保護者に活動内容の要望を聞くのも良い。

教職員が行っている施設安全点検に委員が入るのも良いのではないかな。

③地域活動部会

（委員）3月2日、東大跡地でのマルシェへ参加することについて確認。

コミュニティ・スクールの意義を知ってもらうことを目的として、二宮小学校、一色小学校子供会も当日参加する。二宮小学校学校運営協議会による綱引き大会を承認していただきたい。

来年度は、地域行事への参加だけではなく、家庭科のミシン掛けや裁縫などの授業の補助に地域に入ってもらえるかどうか。

議題（2）学校研究について

（担当）「誰一人取り残されない学級集団、学習集団づくり」「資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学び」を研究テーマとして二宮町教育研究所より教育力向上アドバイザー吉新一之氏に年間を通してご指導いただいた。教科グループにより、教科の垣根を越えて自分に無かった視点を得ることは効果的であることがわかった。また、関連の近い教科でグループを組むことで様々な論点についてイメージがしやすくなり、校内研究が有意義なものになったと考えられる。問題解決学習を行う上で、生徒にとって、どの課題が取り組みやすく、積極的に取り組むことができるのか、教員の中で、いくつか答えを得る機会となり、生徒に出す課題の質が上がった。さらなる研究を重ねたい。

議題（3）学校評価について

- （委員） 1年生は、生徒の自己肯定感を高めるために、当番活動や部活動などで頑張っている生徒を認め、学年職員で共有することが大切である。
- 友達の悩みや相談ごとに親身になって対応している生徒が多いのは喜ばしい。学級の話し合いや行事に積極的に参加していると思っていない生徒が多いので、学級組織や行事の役割分担を次年度はさらに明確にしていきたい。
- 地域の行事に積極的に参加している生徒が少ない中で、はらっぱマルシェに参加する生徒が出てきたのは嬉しいことである。
- テストの平均点について懸念され、日頃の授業がうまくいっているのかというご意見については、定期テストは年3回だけであり、日頃単元テスト等もやっていることをご理解いただきたい。
- 登下校のときの道に広がって歩いて危険というご意見には朝・帰りの会でたびたび指導しているが、家庭でも「運転する立場」という視点で話してもらえるとありがたい。
- （委員） 2年生は、どの項目もよくやっている。「そう思う」人が多いのがよい。はっきりと言いきれるのが素晴らしい。
- 二宮町に愛着をもっている生徒が多く、地域学習を総合的な学習で扱った甲斐があった。
- 問題や課題を自らPCを使って調べる項目は94%。日頃から積極的に取り組んでいるからこその結果である。
- 困っている人がいるときには進んで手を貸して助けている生徒も半数が「そう思う」と回答していることは嬉しい。日常生活でも助け合っている様子が見受けられる。
- 学校内外生活全般落ち着いているので、この結果を保っていきたい。
- 地域の行事への参加がやや少ないので、積極的に参加してもらえるとよい。
- （委員） 3年生が地域とのつながりが低いのは、コロナ禍の影響があるのか。
- 総合的な学習の時間では、二宮町についていろいろなアイデアを出していた。
- タブレット端末の授業での活用は各教科で有意義に使っているが、使い方を指導する必要がある。
- （委員） 本年度は施設分離型小中一貫教育校にのみや学園がスタートしたことをふまえて、学校評価にのみや学園の教育目標「認め合い、高め合う、二宮の子」についての項目を入れた。どの学年も「二宮町に愛着と誇りを持っている」以外の項目は概ね安定した回答が得られている。「二宮町への愛着と誇り」については、それらの思いに至るために、日々の教育活動の中で地域について知り、地域と関わることを重ねている。将来離れてみてわかる二宮の良さもあることを視野に入れながら、総合的な学習の時間や学校運営協議会の活動の充実を図り、愛着や誇りを育てていきたい。
- 学校経営の重点である人権教育の推進については、「誰一人取り残さない集団づくり～自分の大切さとともに他者の大切さを認めることができる集団の育成～」を目指し、生徒一人ひとりに真摯に向き合い、その良さが引き出され、集団の中で活かされるよう、取り組んでいる。教職員のことば遣いや振る舞いが生徒に大きな影響を及ぼすことに十分留意しながら、日頃から生徒や保護者との信頼関係を築いていきたいと考える。
- また校則や細かなルールについては、学級会、学年委員会、委員会、生徒評議員会、生徒会等の生徒の組織を活かしつつ、時間をかけて計画的、建設的な取組をしていけるよう取り計らっていく。

チーム支援の構築については、不登校や登校渋り、様々な要因で困っている生徒一人ひとりに寄り添い、担任が一人で抱えこまないよう学年職員を軸に教育相談コーディネーターやSC・SSW、他機関とも連携し引き続き真摯に対応していく。職員間の報告・連絡・相談はかなり定着している。

インクルーシブ教育の推進については、今年度は個別学習室の運営に力を入れた成果が出ている。また日本語を母語としない生徒に日本語指導員も配置され、大いに支援していただいた。すべての生徒が同じ場で学び、ともに育つことを通して、互いを理解し尊重し合うために、特別支援級の指導の充実や人権教育に重きを置いた学級経営の充実を図っていく。

安全教育の推進については、今年度は、地震・火災・不審者・津波対応の避難訓練、水難事故防止教室、スケアードストレート交通安全教室、PTA 主催防災体験学習（3年生対象）などを通して、安全教育を推進することができた。水難事故防止教室については、にのみや学園の小中学校に系統的に取り入れられないか、二宮町教育委員会に働きかけている。なお、下校時の道路の歩き方については、引き続きご家庭でもご指導願いたい。

地域・保護者との連携については、学校運営協議会を年4回開催し、学習支援、学校環境整備（施設・防災）、地域活動を柱に活動の充実を図ることができた。保護者や地域にこの学校運営協議会そのものについての理解と周知がまだ不十分であることが挙げられる。

議題（４）学校予算について

（委員）公費関係は、備品関係、部活動備品、感染症流行下における学校教育活動体制整備事業に係る購入品一覧参照。

保護者負担関係について、修学旅行代金の積立ては、物価高騰もあり見直しが必要である。保護者負担と公費負担の見直しをこれからもしっかりとしていく。

議題（５）コミュニティ・スクール運営促進事業経費について

（委員）残余は校内柱クッション等に使っていききたい。

議題（６）PTAより

（委員）PTA 主催で防災体験学習を3年生対象に開催した。今後も継続していききたい。

議題（７）地域より

（委員）町民体育祭や継走大会がなくなり、中学生対象の行事は少ない。親子で参加するものは多い。

（委員）地域の行事もなくなっている。高齢者が多く、子どもが少ない。

成長の段階で自分の世界ができてくるので、地域に出ていくのは少なくなるだろう。朝のパトロール時はなるべく話すようにしている。2年生の総合的な学習の時間の発表会への保護者参加が少なかった。子どもたちのペースを大切に、職員は動いており、良いと思った。

（委員）テスト2週間前は問題演習をする時期であるのに、学校のワークの課題に追われている生徒が多い。教員がこまめにワークのチェックをしてあげられるとよい。

（委員）自分が好きなこと、得意なことを地域に還元できたら良いだろう。

（委員）不審者が出た場合、どう対応するか。運営協議会と職員、登下校の地域の見守りの方との連携が必要だ。

（委員）地域の行事には、仲の良い子がいれば生徒は参加しやすい。

議題（８）次年度に向けて

(委員) 運営協議会の二宮小との連携のあり方などを考えていきたい。

(委員) 各部会の委員の人数割りも要検討である。

議題(9) その他

制服のあり方検討会の進捗状況について報告。

4 各部会の打合せ

5 閉会